

北九州市立大学 地域戦略研究所 News Letter

2025 年 1 月号
No.27

[発行]

公立大学法人

北九州市立大学 地域戦略研究所

〒802-8577 北九州市小倉南区北方 4-2-1

(tel) 093-964-4302

(fax) 093-964-4300

(mail)chiikiken@kitakyu-u.ac.jp

企業と共に未来を創るー北九州 SDGs Meet up! 開催-----

学生が主体となって企画・立案したこのイベントが、2024 年 11 月 30 日 フランキー・ウーアジア国際交流ホールにて開催されました。はじめに、学生による「SDGs 基礎講座」を実施した後、ご参加いただいた企業から、SDGs の取り組みについてお話しいただきました。その後「学生に魅力が伝わる SDGs の PR 戦略とは」というテーマでワークショップが行われ、企業の方と学生が意見を交わしました。

今回ご参加いただいた企業は、(株)ギラヴァンツ北九州、光和精鉱(株)、(株)ゼンリンプリンテックス、大英産業(株)、(株)タカギ、日本ファインテック(株)、ネッツトヨタ北九州(株)、福岡ひびき信用金庫、(株)ライフクリエイトの 9 社で、どの企業においても、持続可能な社会の実現に向けて、意欲的に取り組まれています。このイベントを通じて、企業の SDGs に関する取り組みや姿勢を知り、学生も共に、持続可能な社会の実現に向けて思いを馳せ、明るい未来が感じられる貴重な時間を共有できました。また、ご参加いただいた企業にとっても、SDGs への取り組みに対する学生の考え方やアイデアを吸収する機会になり、今後の人材採用のみならず、企業経営全体に対して活かすことができる成果を得ていただいたようでした。



中華ビジネス研究センターとの合同セミナー報告-----



2024 年 11 月 13 日午後、小倉サテライトキャンパスにて、中華ビジネス研究センターと地域戦略研究所アジア地域連携部門と共同で、北九州商工会議所後援を得て、「台湾系半導体企業の対九州投資の動向と影響」と題する合同セミナーを開催しました。

セミナー講師の江泰愷先生(工学博士)からは、世界の半導体産業をリードしてきた台湾同産業の構造的特徴や、TSMC による九州投資の背景、意義と課題を専門的な視点から説明していただきました。

コメンテーターの王効平センター長は、地政学的経済安保観が先進半導体メーカーの多角的立地を促していることや、日米半導体産業(企業)のビジネスモデルの相違が半導体産業の盛衰を左右してきたこと、一国の外資誘致策が投資者が求めるインフラ整備の水準を決定付け、誘致効果に大きな影響を有すること等の見解を示しました。会場の収容定員を超える参加数を得たうえ、多くの方から質問が出て、関心の高さがうかがえました。



仁川研究院との共同研究発表会-----

仁川研究院との第 17 回共同研究発表会が、仁川市内で 9 月 29 日から 3 日間の日程で行われました。今年度は「仁川と北九州の外国人労働者及び文化観光政策」をテーマに、両都市の現状や取り組みに関して 4 報告ありました。本学の見館好隆教授の「外国人受け入れ制度の日韓比較について」、仁川研究院経済環境部長の尹錫眞氏の「仁川地域の外国労働者の実態、及び活用・支援の改善方案」、北九州市民共済生活協同組合専務理事の吉田茂人氏の「門司港レトロ 30 周年そして夜景日本一都市へ」、仁川観光公社想像プラットフォーム運営事業のチーム長の河俊旭氏の「港湾施設を活用した文化観光再生事例-想像プラットフォーム&1・8埠頭-」でした。

とくに吉田氏の第 3 報告は、2023 年に訪日した仁川研究院朴虎君院長の『港湾を観光資源として開発した「門司港レトロ」の事例を、仁川市内港地区の再開発事業に参考にしたい』というご意見に応えた発表でした。第 4 報告では、仁川の港湾地区の再生事例が紹介されました。

また、フィールドワークでは、港湾施設を文化や複合施設として再生させた仁川市の「創造プラットフォーム」、仁川国際空港一帯の観光客誘致のための複合施設の視察が行われました。今回の交流においても、両都市が直面している外国人受け入れ問題解決、観光産業の活性化に向けた多くの提言や示唆がありました。



北九州地域の現況・魅力の理解を促進する授業を展開しています-----

副所長：南 博

北九州市立大学の全 6 学部・学群の学生を対象として開講されている教養教育科目の中には、地域社会の諸問題や魅力、施策等を理解し、知識を身につけることを目的とした「地域科目」が位置付けられており、そのうち 7 科目は地域戦略研究所が開講しています。

本学では 2025 年度から新しい教育カリキュラムが導入されますが、7 科目については一部の授業名を変更したうえで引き続き本研究所が開講することとなりました。

これらは、学生自身の学習・生活の地である北九州地域の魅力を知り、理解と関心を向上させることを目指しており、また本研究所の地域・企業とのネットワークを活かして多くの実務家ゲストをお招きし、実情に即した教育を行っている点が特徴です。

例えば、筆者が 2024 年 2 学期に担当した「地域のにぎわいづくり」は、観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ授業であり、全学部から 550 人が受講しました。ゲストとして北九州市役所 MICE・エンターテインメント課、観光課、スポーツ振興課、また毎日新聞西部本社、ギラヴァンツ北九州、ボルクバレット北九州の方々にお話をいただくとともに、直近の北九州市内での各種イベント等を題材としてにぎわいづくりの意義や課題、今後求められる視点などについて学生が主体的に考える機会を提供しました。学生からも例年「北九州市への理解・関心が深まった」等のコメントが寄せられています。

◆地域戦略研究所が開講する地域科目◆ (2025 年度以降)

地域の社会と経済、地域の文化と歴史、
地域のにぎわいづくり、地域と国際、
北九州市の都市政策、まちづくりの仕事、
働き方の未来(企業研究と自己分析)

※地域戦略研究所は、北九州市立大学の北方キャンパス 3 号館 1 階に、事務室、会議室、資料室等があります。

〒802-8577 北九州市小倉南区北方 4-2-1

TEL：093-964-4302／Fax：093-964-4300

Email：chiikiken@kitakyu-u.ac.jp